資料３

プラスチック製容器包装に係る燃料ガス化等
（生成されたガス等をそのまま燃焼させているもの）
に関する検討会

プラスチック製容器包装 再商品化の取組み

2017年4月24日

ジャパン・リサイクル株式会社

１)ｼﾞｬﾊﾟﾝ･リサイクル(株)　リサイクル事業部概要

１．本　社；千葉市

２．設　立；1998年（平成10年）12月

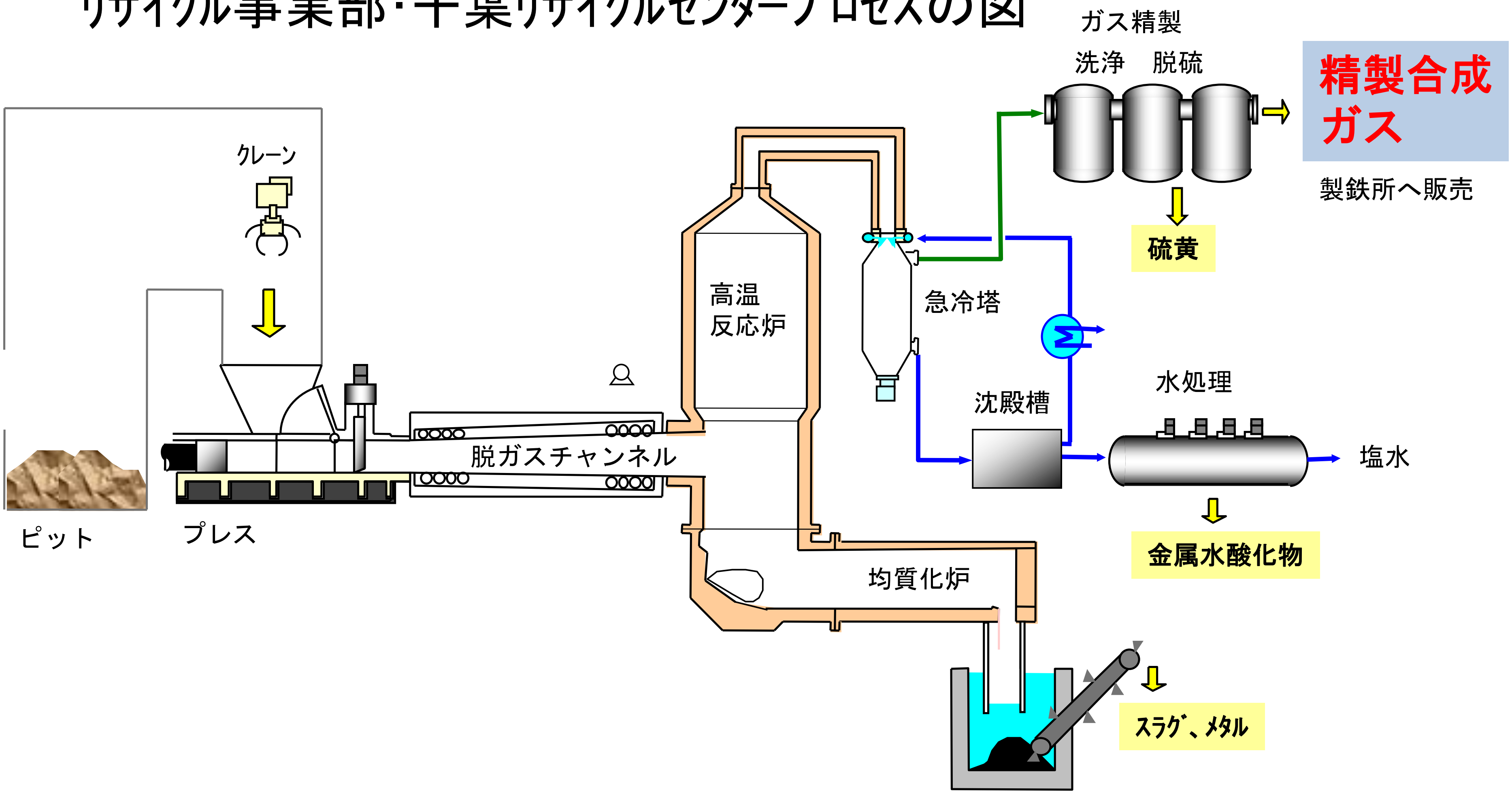
３．資本金；12億円（株主＝JFEｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ㈱）

４．従業員（本社、ﾘｻｲｸﾙ事業部）；４９名（平成29年4月現在）

５．事　　業；①産業廃棄物・一般廃棄物のﾘｻｲｸﾙ事業
②ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ製容器包装の再商品化事業
③事業に伴う精製ｶﾞｽ、ｽﾗｸﾞ等副産物の販売

2）再商品化処理フロー

リサイクル事業部･千葉リサイクルセンタープロセスの図



サーモセレクト方式熱分解ガス化溶融設備　300トン／日（150トン／日×２基）
JFEスチール（株）東日本製鉄所･千葉地区内に設置

３）プラスチック製容器包装再商品化実績

２００１年度（平成１３年）から再商品化実施。

ここ１０年間、年間１万トン前後を再商品化

2016年度　再商品化処理実績　　９．４千トン

容リプラ再商品化　ガス販売量　２１，０１２　千Nm^3　（2016年4月～2017年3月）

4）再商品化ガスの利用先について

【現状】
販売した再商品化ガスは、製鉄会社が所内の発電所の燃料として利用

【今後の考え方】
時代の要請を受けて、『水素社会』の一翼を担うべく水素ガスとしての利用を図る。
（製鉄会社・化学会社に水素製造用の原料ガスとして販売する）

【現状】　容リプラ　→　ガス化改質処理　→　精製合成ガス　→　燃料ガスとして販売

利用先：発電所用の燃料

【今後】　容リプラ　→　ガス化改質処理　→　精製合成ガス　→　水素製造用ガスとして販売

利用先：冷延鋼板製造の最終工程における炉内雰囲気調整用プロセスガス（水素ガス）
化成品製造工場での原料からの硫黄除去用の水素ガス

5）事業展開（用途変更）までのスケジュール

2019年度(Ｈ31年度)から水素ｶﾞｽとしての利用開始を予定

年度	2017 （H29）	2018 （H30）	2019 （H31）
利用先との検討 (ｶﾞｽ条件、供給ﾙｰﾄ 事業化のFS　等）	→		
工事計画 詳細立案、経営判断 機器購入、対応工事、改造 実証ﾃｽﾄ、条件調整･試運転	→	→	
用途変更開始			★→

できる限り速やかにﾌﾟﾗｽﾁｯｸ製容器包装再商品化ｶﾞｽのさらなる有効活用を図れるよう取り組んで参ります。
実証試験等のため、上記期間の猶予をいただくことに、何とぞご理解賜りたく、よろしくお願い申し上げます。